

皆様おはようございます。

本日、ここに議員各位の御参集をお願い申し上げ、平成31年 第1回江田島市議会を開会するに当たりまして、御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、平素から市政運営に対し、格別の御理解と御協力をいただきまして、深く感謝申し上げます。

さて、市内を見回しますと、梅の白やピンク色の花が徐々に咲き始め、多くの木々には春を待たんばかりの芽が大きく膨れてきて、すぐそこに春の息吹を感じられる季節となりました。また、暖冬と予想されておりましたこのたびの冬は、暖かな日の翌日には急に寒さが厳しくなったり、経験とは異なる自然の流れがそこにあるように感じております。

そうした中、自然の脅威には逆らえず、本市におきましても、今年の7月豪雨災害では、甚大な被害をもたらせ、多くの市民の皆様にご心労と御負担をおかけしているところでございます。市では、2月1日には、国からの最終の災害査定も終え、復旧・復興につきまして、本格復旧工事開始という次の段階に移っております。

この災害に関連いたします総予算は、平成30年度、31年度の総合計で、38億6千万円にも上り、復旧には期間も2年から3年にかかる見通しでございます。一刻も早く、以前の生活や街並みを取り戻せるように、全力を傾注してまいります。

このように新年度予算につきましては、災害復旧・復興を最優先とした予算としており、詳しくは施政方針の中で述べさせていただきます。しかしながら、その中であっても未来に向けた努力は引き続き行っていかなければなりません。

今市議会定例会は、平成31年最初の定例会であるとともに、平成最後の定例会でもございます。

思えば平成という30年の長い歴史の中には、今まさに議論しておりますサンビーチおきみが平成8年に、シーサイド温泉のうみは平成10年に完成をいたしました。そして平成14年には、ふるさとの心を育てる「さとうみ科学館」のオープン、また、今年度には海軍兵学校移転130年を記念しての特別展示を行いました「学びの館」が平成15年に建築されております。

そういった中で、平成最大の出来事と言え、32回にもわたる合併協議会や市民の皆様による多くの議論を経て実現をいたしました、平成16年11月1日の江田島市誕生でございます。4つのまちが、それぞれ紡いできた歴史が一つとなり、より強固に、より近くに、より仲良く新たな歴史を歩み始めました。

そして、平成18年の送水トンネル崩落事故による断水や平成23年の東日本大震災でのフェリーの貸出しにおいて、絆や縁をつなげてまいりました。

このように私たちは平成という一つの時代をしっかりと歩み、改元というこの新たな、大きな歴史の節目に生きております。そして、先人の皆様が築き上げて

くださった、この愛する江田島市を次の時代、未来へつないでいく責任が私たちにはございます。いいものを作り、いいものを残していく、それを目に見える形とするために、私の方針であります3つの重点テーマ「しごとの創出」「子育てしやすい環境づくり」「健康寿命の延伸」にぶれることなく邁進してまいります。

その一つとして、地域包括ケアシステムの構築は大切なものと思っております。

本市におきましても、構築に向けての準備を進めているところではございます。しかしながら、まだまだ、この言葉も市民の皆様には浸透しているわけではございません。この地域包括ケアシステムというのは、厚生労働省の説明では、「ニーズに応じた住宅が提供されることを基本とした上で、生活上の安全・安心・健康を担保するため、医療や介護、予防のみならず、生活サービスを含めた様々な生活支援サービスが日常生活の場、日常生活圏で適切にできるような地域での体制」と言われております。

読んだだけでは、あるいは聞いただけでは、よく分からない感じがいたします。県のトップセミナーでの講師の言葉をお借りいたしますと、地域包括ケアシステムとは、「馴染みの人間関係のある場所、つまりは住み慣れた地域でマイペースに生活ができる気楽さが目的」とのことです。最後まで自分らしい暮らしをつづけること、このことを地域全体で支えるということではございます。江田島市全体がそうなれば、高齢者の方も、一人暮らしの方も安心して、江田島市に住むことができる、そんな良いまちができると思っております。

そうするためには、職員も更なる努力をする必要がございます。そのため、私はまちづくりに取り組む姿勢といたしまして、2点、職員と共有したいと考えております。

1点目は、「挨拶」でございます。市民の皆様への挨拶はもちろんのこと、職員同士におきましても、挨拶を徹底するというところでございます。挨拶とは、自分を開き、人に近づき、人に迫り、お互いに心を通わせ合うということの意味でございます。

2点目が、「当たり前前を当たり前にする」ということでございます。

「自分の与えられた職務は何か」「職員としての使命は何か」ということを自問自答し、初心に戻りまして、すべてに感謝をし、職務を全うするというところでございます。「今更、何を」と感じられる方も多いかと思います。しかしながら、昨年末、心ならずも、私を含めまして、職員を処分せざるを得なかったことを踏まえれば、「当たり前前が当たり前に行われていなかった」ところに原因があると思っております。

そうした「当たり前前を当たり前にする」、このことに、江田島市の明るい未来へ向かう鍵があると確信をしております。

江戸時代の儒学者であります伊藤仁斎（いとうじんさい）先生の言葉に、「勇往向前（ゆうおうこうぜん）という言葉があります。勇気をもって前に進め、一日は一日より新たならんことを欲す」というのがございます。

人は昨日より今日、今日より明日と勇気をふるって日々新たに成長することが大事であると教えていただくものでございます。

私も、市長に就任させていただきまして、今日で、814日目となり、1年目よりも2年目、2年目よりも3年目と勇気をふるって、常に新たな施策を展開しながら、皆様とともに江田島市の成長を成し遂げるため日々努力をしております。

議員各位の一層の御支援と御協力を是非ともお願いいたします。

さて、今議会では、江田島市国民健康保険税条例等の一部を改正する条例案など、当面する市政の重要案件につきまして御審議をお願いすることといたしております。

これら各案件につきましては後ほど御説明を申し上げます。何とぞ十分な御審議をいただき、議決を賜りますようお願いを申し上げます。

それでは、12月開会の定例会以後の市政の主な事柄（ことがら）につきまして、主なものを報告させていただきます。

市政報告書1ページの、1項目めでございます。

「江田島市消防出初式について」でございます。

1月12日、能美運動公園におきまして、「笑顔」をテーマに、江田島市消防出初式を開催いたしました。

当日は、404人の市民の皆様や来賓の皆様の御参観の中を、市内の防災関係機関及び防災関係者438人の方々や車両26台が分列行進を行いました。

公開訓練では、消防団によります放水展示と消防本部及び消防団によります一斉放水を披露いたしました。

また、女性消防団員の皆様によります豚汁の炊き出しが盛況で、防災〇×クイズにも多くの参加があり、大変盛り上がりました。

今後も、市民の皆様の負託に応えるため、消防力の強化を図るとともに、市内の防災関係機関及び防災関係者の方との更なる連携強化に努め「災害に強いまちづくり」を進めてまいります。

他の項目につきましては、報告書のとおりでございます。

以上で報告を終わらせていただきます。